第11課　信仰の家族

【暗唱聖句】

「こういうわけで…わたしたちもまた、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか、信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自身の前にある喜びを捨て、恥をもいとわないで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになったのです」ヘブライ12：1，2

【日曜日・良いことを支持する】

「そこで、ペトロは口を開きこう言った。「神は人を分け隔てなさらないことが、よく分かりました。どんな国の人でも、神を畏れて正しいことを行う人は、神に受け入れられるのです」使徒10：34，35

神様は平等でどんな人をも分け隔てをされません。特に、神様を畏れて正しいことを行う人を神様は受け入れてくださいます。このことは、わたしたちのノンクリスチャンに対する見方にも影響を与えます。わたしたちもどんな人も分け隔てしないことが大切であり、特に神様を畏れて正しいことをする人に対して敬意と誠実さを持って接することが大切です。

「それで、わたしはこう判断します。神に立ち帰る異邦人を悩ませてはなりません。ただ、偶像に供えて汚れた肉と、みだらな行いと、絞め殺した動物の肉と、血とを避けるようにと、手紙を書くべきです」使徒15：19，20

異邦人伝道では、知らず知らずのうちに聖書ではなく、文化を押し付けてしまうことがあります。このことで異邦人を悩ませてはなりません。汚れた肉を食べないことやみだらなことをしないことなど、してはならない最低限のことを教えるにとどめるべきであると言っています。

「わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです」コリントの信徒への手紙一2章 2節

余計なことを話さないで、十字架のキリストという最も大切なことのみを話すというのがパウロの伝道方法の結論でした。このことはわたしたちが他者に伝道するときにも、重要なポイントとなります。

「すべてを吟味して、良いものを大事にしなさい。あらゆる悪いものから遠ざかりなさい」テサロニケの信徒への手紙一5章 21節

すべてを吟味して、良いものだけを大切にし、悪いものは遠ざけることも重要です。教会に導きたいがために、真理に対して安易に妥協してはなりません。そうすると、教会に混乱を起こすことになります。

【月曜日・家族に対する文化の力】

「わたしがアブラハムを選んだのは、彼が息子たちとその子孫に、主の道を守り、主に従って正義を行うよう命じて、主がアブラハムに約束したことを成就するためである。」創世記18：19

神様はアブラハムを選んで、子どもや子孫に、主の道を守り、主に従って正義を行うように命じました。家族の救いを願わない人はいないでしょう。しかし、家族への伝道は極めて難しいことが少なくありません。これはなぜなのでしょう。何が欠けているのでしょう。神様がアブラハムに命じているのは、家族を単に救うことではなく、アブラハムに続く子孫、すなわちイスラエルが世界の祝福の基となることでした。崇高な目的を持って選び、その目的達成のために子どもたちを教え導くように命じたのでした。わたしたちもそのような目で子どもや孫たちを見つめることが大切なのかもしれません。

　また、家族の在り方は国や文化によってことなります。伝道において、その点をよく理解する必要があります。聖書の中では、たとえばサラが子どもが生まれないので、自分の女奴隷に子どもを産ませようとします。またソロモン王はたくさんの女性をそばめがいました。このような出来事に戸惑いを覚えるかもしれませんが、当時の文化の中で普通に行われたことを理解する必要があります。このことは現代においても同様です。たとえば、日本では、欧米のように個人の宗教を尊重されず、家の宗教が重んじられることが少なくありません。お嫁さんが嫌々ながらであっても家の宗教を守っているは、外国の人には理解しがたいかもしれません。伝道においては、様々な文化の違いを理解し、忍耐を持って祈り、励まし続けていく必要があります。

【火曜日・季節の変化を通じて家族を支える】

多くの人は安定した生活を求めます。しかし、突如として変化が訪れ、それが家族全体に影響を与えてしまうことが少なくありません。たとえば、病気や死、災害、転居や失職など、しばしば予想していないときにそれは起こったり、予測していたとしても予測遥かに上回ったり、その度にその大きな変化に対応しなければならくなります。

1. アブラハムとサラ、そしてロトは生まれ故郷を離れて新しい地へ旅立ちます。先のことは何もわからない旅立ちなので、不安も大きかったことでしょう。
2. ハダサ（ペルシャ名エステル）は、突然王の命令で王宮で仕えなければならなくなりました。
3. ダニエルたちは、バビロンに捕囚となりました。王室での生活となりましたが、食べ物のことで信仰がためされることになります。

いずれもそれまでの日常生活がすっかり変わり、新しい環境のもとで生きなければならなくなったケースです。しかも、先が見えないような状況でした。そのため神様への祈りと究極の信頼が求められました。わたしたちも同様に変化に突如襲われた時、不安や恐れの中にあっても、主なる神への絶対的な信頼と、より一層熱心な祈りが求められます。

【水曜日・第一世代の信仰を目指して】

「ヨシュアの在世中はもとより、ヨシュアの死後も生き永らえて、主がイスラエルに行われた大いなる御業をことごとく見た長老たちの存命中、民は主に仕えた…その世代が皆絶えて先祖のもとに集められると、その後に、主を知らず、主がイスラエルに行われた御業も知らない別の世代が興った。イスラエルの人々は主の目に悪とされることを行い、バアルに仕えるものとなった」士師記2：7～11

信仰継承の難しさはいつの世も同じようです。1世代の燃えるような信仰に対して、2世代、3世代と続くにしたがって信仰の炎が弱まってしまうことがあるのは事実でしょう。もちろん、1世代に勝るとも劣らない信仰を継承する人も大勢います。ヨシュアの出来事からわかるのは、ヨシュアをはじめ長老たちが、神様が行われた偉大なる御業を見て、ゆるぎない信仰を持っていた間は、民たちも主に仕えたということです。言葉だけで、神様の大いなる御業が表れないような信仰生活であれば、次世代への説得力に欠けてしまうのでしょう。

「言（イエス）は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によってでもなく、神によって生まれたのである」ヨハネ1：12，13

救いは血筋によらず、神様の霊によって導かれるものです。信仰は遺伝的に生まれつき継承されるものではありません。しかし家族は無力かといえば、決してそんなことはありません。神様のもとへと導くことはまず家族の働きです。

【木曜日・21世紀の伝令】

私たちが語り継がなければならない大切な福音メッセージを要約すると・・・

・「あの方は、ここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なさったのだ」マタイ28：6

…イエス様は死から復活されました。同様に、イエス様を信じる者は復活し、永遠の命が与えられます。

・「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」ヨハネによる福音書3章 16節

…神様はわたしたちを愛しておられます。

・「わたしは福音を恥としない。福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです。福音には、神の義が啓示されていますが、それは、初めから終わりまで信仰を通して実現されるのです。「正しい者は信仰によって生きる」と書いてあるとおりです」ローマの信徒への手紙1：17、18

…信仰によって救われます。

「なぜなら、わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです。」第一コリント2：2

…キリストの十字架は福音（罪の赦しと救い）の中心です。

「罪と何のかかわりもない方を、神はわたしたちのために罪となさいました。わたしたちはその方によって神の義を得ることができたのです」第二コリント5：21

…キリストは私たちの罪の身代わりとなり、わたしたちは正しいものとされました。